

# 第2回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール 上位入賞作品から見た 読まれる「通信」とは。(下)

前号では、第2回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール（主催：理想教育財団）の上位入賞作品をもとに、学校通信・学年通信・学級通信にしぼって「読まれる通信とは」を考えてみました。今回は、教科通信などそれ以外の作品について考えていきます。

上位入賞作品（31点）の内、学校通信・学年通信・学級通信以外の作品は、最優秀賞の「食育広報誌」の他に「教科通信」が3点、「保健だより」が1点でした。

「食育広報誌」については2006年秋号で詳しく紹介しましたので、ここでは他の入賞作品についてみていきます。

## 発行の意図をくまなく

まず「教科通信」ですが、内訳は算数が2点、英語が1点でした。

上位入賞5作品の内1点、優秀賞・教育家庭新聞社賞を受賞した『豊二算数新聞』（練馬区立豊玉第二小学校・増田隆一先生）の講評で、審査員の吉成勝好先生は、「教科通信は、学級通信以上に発行の意図をしぼることが必要だ」と述べています。

通信を何のために出すのか？言わば通信の原点ともいえるべき問題です。そこで今回は、それぞれの作品の「発行の意図」についても触れながら、読まれるための工夫（活用されるための工夫）をどのようにしているか、発行者と審査員の先生方の講評



●練馬区立豊玉第二小学校の学習研究「豊二算数新聞」



をもとに探っていきたいと思います。

この『豊二算数新聞』は算数の少数指導のための通信ですが、吉成審査員は次のように続け、高く評価しています。

「この通信の目的は、①「算数って楽しいよ」という思いを伝え「算数好き」の子を育てる。②学習のポイントをアドバイスする。③保護者に少数指導への理解を深めてもらうことの3点だが、その意図は十分達せられたのではないかと。また、教師にとって大いに参考になる教科通信の実践だろう、とも述べています。

①新聞・雑誌・テレビなどのメディアに

広く目配りして材料を入手する。

②毎回算数の授業の様子を載せる。

③先生方の声や子どもたちの声を取材する。

④コラムや子どもの実態調査の分析記事を載せる。

などとして、常に読者を意識した通信づくりをしています。

吉成審査員も「コラム・算数ちよつとした話シリーズも面白いし、知的障害学級への取材も感動した」と述べています。

## 保護者に役立つ情報を提供

優良賞の「算数だより」（三豊市立桑山小学校）も少数教育のために発行されています。



●三豊市立桑山小学校の「算数だより」



●「読まれる通信とは(上)」をご覧になりたい方は、財団ホームページ (<http://www.riso-ef.or.jp/>) 季刊理想のコーナーに掲載しています。また、通信づくりに役立つ「通信なんでも相談室」や「教育現場の著作権」についても、ぜひご覧ください。

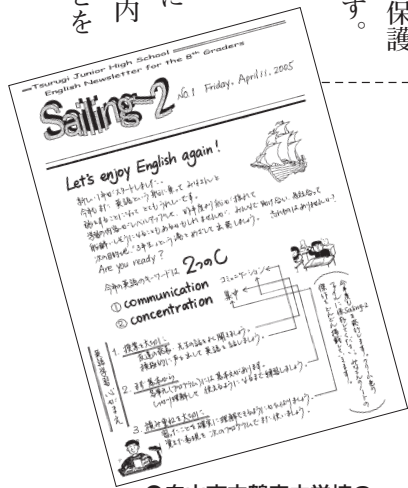
同校の香川やよい先生は、「少人数教育、特に習熟度別学習を行う上で、保護者の理解を得ることが重要な課題の一つである。子どもたちの「できた!」という喜び、「わかった」という確かな伸びが実感できることが保護者を変えていく」と考え、制作に取り組みました。

具体的には、算数学習の内容をオープンにするために、「算数だより」を単元のはじめと終わりに発行し、①学習内容や学習中の子どもたちの様子②つまずきとその具体的な指導③子どもたちの伸びを「数値」でも示しながら紹介するなど工夫しています。

吉成審査員は、「特に導入段階で「つけない力」を簡潔かつ明確にまとめて記載していることはすばらしい試み」と高く評価。

また、「つまずきチェック!」欄を設けている点についても、わが子の勉強を見てあげたい低学年の保護者に役立つ情報と評価しています。

香川先生は保護者啓発を目的として始めた「算数だより」が、いまでは「子どもたちのつまずき対策や復習」に、さらに香川先生自身にとっても「学習内容の把握・分析」や「つまずきを



●白山市立鶴来中学校の英語科通信「Sailing-2」

未然に防ぐような支援」を考えたりすることに役立つしていると述べています。

### 生徒が作った英文で興味関心を手書きで親しみやすい紙面に

白山市立鶴来中学校「英語科通信 Sailing-2」(優良賞)の発行意図は、「英語の授業のない日にも少しでも英語に触れてほしい」(北光代先生)ということでした。

生徒の興味・関心を引き付けるために、試行錯誤の末いまでは、生徒の手による英文を数多く掲載しています。生徒の作品の他には、学習のポイント、テストのポイント、教科書の内容を深めるための情報や英字新聞の記事、英語圏の文化や習慣など、盛りだくさんな内容となっています。

英語科通信は手書きが原則。生徒の作品もできるだけ直筆で掲載して

いますが、読みにくいときにはパソコンで打ち直しています。

ただしパソコンによる活字だけにならないよう、北先生のコメントを手書きで添えたり、生徒の描いたイラストを入れたり、親しみやすい紙面づくりを工夫しています。

鈴木伸男審査員は、どちらかといえば日々の授業の補助資料という面はあるが、「生徒の学習意欲や英語の学力向上等にとっても有効」と指摘しています。

### 学校と家庭との連携が目的。総ルビでレイアウトはシンプルに

教科通信以外では、豊橋市立芦原小学校「保健だより(ウン)クーネルダス」が審査員特別賞を受賞しています。

同校は市教育委員会の「健康教育」研究指定校であるため、鈴木玉代先生が念頭においていることは、

- ①学校が取り組んでいることを伝え、家庭との連携を図る。その際、学校からの一方通行にならないように、保護者や子どもの声を取り上げるように努める。
- ②子どもたちも興味を持って読めるようなものにする。

③学級担任が学級指導に活かせるようなものとする。ということです。

春の健康診断の準備・注意事項、歯科検診の記号の解説、夏のプール指導における伝染病予防の知識、熱中症への予防と対処などきめ細かな情報を提供。

菊池清広審査員は、「学校行事や季節に合わせた情報や保護者への呼びかけなどが簡潔に掲載され、文章は子どもにも理解できるように配慮もある」と評価しています。

ちなみに文章は総ルビ。横書きで、パソコンで上から打っていくだけの簡単なレイアウトですが、イラストやグラフなども多く、わかりやすい紙面構成です。

\* 学校名・役職は応募時点のものです。



●豊橋市立芦原小学校の保健だより「(ウン)クーネルダス」通信名は、元気な生活の基本は運動(ウン)、しっかり食べる(クー)、しっかり睡眠(ネル)、毎日うち(ダス)を合成したものだ